

陳 情 文 書 表

受 理 番 号	陳 情 第 1 4 6 号
件 名	にいがた 2 k m より除雪などを求めることについて
要 旨	<p>           便利な生活を求めるひ弱な住民を力づくで支配する、正当化するのはやめてほしい。            にいがた「ゆきみち」ガイドはマニュアルなのか、ガイドラインなのか、抽象的です。ガイドには、生活道路の除雪は1車線確保が原則、必要に応じ路面整正、拡幅除雪を行うと掲載してありますが、うそです。今年も福祉車両や宅配便が立ち往生しました。大渋滞の原因です。若者が定着しません。政令市なのに、バス停留所を除雪する所管課がない。バス停は乗り降りが大変、地面上に雪岩があり、特につえをついた老人がかわいそうです。生活道路は譲り合いと掲載されているが、譲り合う場所がない。バス利用者と市や新潟交通さんは双務契約しています。歩道除雪も15センチメートルから除雪してほしい。老人や子供が歩けない。道路の端を歩いている。横断歩道も道路の両側は雪の山。歩道として利用できない。前年は災害級の大雪でした。今年ガイドどおり除雪してほしい。公共施設はきれいに除雪するのに、そこに行くための生活道路は1車線では、矛盾を感じます。         </p> <p style="text-align: right;">(裏面につづく)</p>
付 託 年月日 委員会	令和4年2月17日 第1項 〽 第4項 } 環境建設常任委員会
受 理	令和4年2月7日 第576号

また、バス・タクシー支援事業に2億円支出、中学生にバス券3,000円分プレゼント、なぜ高校生ではないのでしょうか。約2億円あるのなら、バス停や歩道除雪をしっかりとやってほしい。偶然に事故が起こるものではない。除雪作業をして予防することができるという考えもある。事故現場の検証が必要。

にいがた2kmより、各区に住み続けるための条件をつくる。にいがた2kmは作詞者がいっぱいいます。季節の作曲や主役が見えない。音も風も匂いも色も、昼夜の季節が何も見えない、聞こえない。所管課も議会も地域のかげ橋として、厳しい財政状況であります。もう一度考えていただきたく切にお願いして、以下のことを求め陳情いたします。

#### 記

- 1 にいがた「ゆきみち」ガイドは必要に応じ見直しすること。
- 2 にいがた2kmより季節のニイガタ対策をつくること。
- 3 中学生に3,000円のバス代等をプレゼントするより、バス停・歩道除雪に支出すること。
- 4 各区の職員は生活道路の凸凹、吹きだまりをスコップ除雪すること。